

<肝臓内科>

一般（教育）目標

将来専門とする分野にかかわらず一般内科医としての基礎的な知識と技術を習得し、組織の中での危機管理や安全技術なども研修の大きな側面と捉え、全人教育を目指して行っている。さらには、消化器科の中でも肝臓領域に特化した科であり、初期研修終了後は将来肝臓の専門医を目指し特別な研修プログラムを選択することが可能なコースである

(具体的) 行動目標

(1) 基本姿勢

各科をローテートしてきた知識を活かし、内科、消化器科に関する知識、手技を深めるとともに、専門的な知識や技術についても上級医師(内科、消化器、肝臓の専門医資格保持者)の指導のもと体得していく

(2) 診察法・検査・手技

内科医としての基本的な知識、手技を深め、消化器特有の検査についても上級医師とともに日常臨床を行い、実地体験を深め向上していくことを目指す

(3) 症状・病態への対応

消化器、肝臓病に特異的な症状、病態の変化をいかに早く見極め適切な対応をとることができるかのマネジメントを習得する。また、消化管出血をはじめとする緊急時の対応についても体得する

学習方略(1)

- (1) 研修期間:1~3ヶ月
- (2) 研修の場:病棟、放射線部、内視鏡室、生理検査室
- (3) 受持ち患者数:10~15名程度

病棟業務

週2回行われる部長、医長回診に参加し、患者状態の把握、治療方針、病態について理解し、知識を深める。その際担当患者の画像診断等のプレゼンテーションを行い、上級医師より指導を受け見識を深めていく。担当患者に対して行われる全ての検査、治療に上級医師の指導の下参加し、知識、技術の修得を目指す

外来業務

2年次までは原則として指導医のもと外来研修を行う。

学習方略(2) 勉強会・カンファレンス・学会など

- (1) 第1、3週の木曜日夜には消化器外科によるカンファレンスが行われ、参加することで肝臓に対する知識を深める
- (2) 適宜(不定期)、画像、難治例についてのカンファレンスを行い、全スタッフとともに病理学的検索も含めた検討を行う
- (3) 学会開催中にローテーションを行う研修医については、原則的に全員最低1回はスタッフに帯同し参加する。学会後、全スタッフで行う報告会に参加しさらなる知識の習得を行う。また、関連学会の地方会における研修医セッションや若手セッションで発表することで、データのとらえ方から始まり、スライド作成に至るまで当科スタッフより指導を受け学問的にも充実した研修を受けられるよう環境を整えている
- (4) 東京、神奈川で行われる研究会には積極的に参加する
- (5) 3年次以降で3ヶ月以上当科をローテーションする研修医については、PCRの基礎、統計学、内視鏡の3コースから希望に応じてコースを選択し専門医のもとで指導を受けることができ、学会発表もしくは論文作成の機会が与えられる

EV評価

PG-EPOCによる評価方法（研修医↔指導医）

※研修医は、各分野の研修終了後、速やかにその分野の自己評価を行い、PG-EPOC評価システムに入力すること